

〔資 料〕

延命寺薬師如来像について

長 田 寛 康

大阪は、北から摂津・河内・泉州の3地域に分かれ、それぞれ特有の文化を育んできた。中でも河内は河内飛鳥という地域名に象徴されるように、古い歴史を包蔵した所である。ここに紹介する延命寺は、河内長野市の緑の木々に覆われた山間に建つ、晩秋には紅葉が映える名刹である。河内長野市といえば観心寺と金剛寺があまりにも有名なため、その陰に隠れた古社寺がたくさんあり、本寺もその一つである。延命寺では、宝物管理のために河内長野市教育委員会の協力を得ながらその調査を順次進めておられ、当調査もその一環として実施されたものである¹⁾。

薬師如来像は、境内にある霊宝堂（昭和2年建築）の展示ケースに安置され、左手に薬壺を執る通規の仏像である。左右に日光菩薩像・月光菩薩像・十二神将像を眷属として配置している。表面調査により、薬師如来像の本体を除くすべてが江戸時代の制作と思われたため、薬師如来本体のみにケースからお出まし頂いて精査することにし、それ以外はケース内での撮影、実測、銘文の確認にとどめた。なお、薬師如来の台座は矧ぎ目に緩みが見られたので、動かして内部の確認をしていない。

薬師如来を説く經典は、4世紀前半には漢訳され中国で流布しているが、唐の玄奘訳『薬師如来本願経』（650年）が最も有名である。そこでは薬師如来の発した十二大願を説き、その第七願に「除病安楽」を述べている。あまたある仏像の中でも、お薬師さんは病気を直し、その苦しみから救ってくれるという現世的利益の大きい働きから、我が国では古くから人々に信仰され愛されてきた仏である。飛鳥時代には法隆寺金堂東間に安置される金銅薬師如来像、法輪寺木造薬師如来像が、白鳳時代には法隆寺金堂壁画が有名である。薬師如来の姿は、各図像集に多様な姿を現し、古くは通仏相の薬壺を持たない施無畏・与願印の場合が多いものの、のちには本像のように左手に「除病安楽」を象徴する薬壺を執る形式が普及し、日光菩薩・月光菩薩を両脇侍に、そして十二神将をその左右や周囲に配するのが最も通常である。十二神将は、その員数が干支と同じことから、平安時代以降になると当寺の十二神将のように頭上に各干支の動物を戴くようになった²⁾。

当寺薬師如来の姿は、頭頂に高く肉髻を盛り上げ、大粒の螺髪を地髪部4段、肉髻部9段、髪際部にて20列を数え、肉髻珠を表し、頭髪は群青彩とする。面相部は彫眼、半眼に

1) 調査年月日 2010年10月5日

2) 『日本の美術』242号 「薬師如来像」伊東史朗 至文堂 1986.7.15

して表情を抑制した慈悲相、眉間に白毫を表し、眉と口髭を墨書き、眼は白色・白緑・茶の顔料と墨で描く。耳朵環状にし、三道を表し、口唇を含めて肉身部を漆箔仕上げとする。体部は、衲衣を偏袒右肩に着し、左手を屈臂して掌を左膝あたりで上にして薬壺を載せ、右手も屈臂して右胸の前あたりで掌を前にして立てる施無畏印とする。両膝は左足を上にして結跏趺坐する。肉身部は漆箔仕上げ、着衣部は薬壺を含め古色仕上げとする。

その構造は、頭部は5材矧付け、差首、体部は根幹部を1材で彫成したのち前後に割矧ぎ、そこに両腕と膝前を各矧付け、内部を内刳る一木割矧造の技法である。頭部は前後3材、背面材は右耳前と左耳後ろで中間材と矧付け、各正中で左右2材を矧付け、前面材のみ1材製とする。体部は右体側部を含めて1材で彫成し、前後に割矧いだのち左体側部に別材を矧付け、前面材の正中下端に像心束を残す。背面襟部から左肩にかけて損傷を受けたようで小材を複雑に組み合わせて修復している。背面には、背板風に別材を矧付ける。左袖口・左手首・薬壺は別材矧付け、右手は肩・臂・手首にて各別材を矧付ける。膝前は、上半分は1材製、下半分は4～5材を組み合わせている。裳先別材矧付け。

漆箔をみても、今の漆箔の下に別の漆箔が見られることより、何度かの修復を経て、現在に至っているようである。結論から述べると、古代（平安時代後期頃）の仏像が中世（室町時代頃）と近世（江戸時代）に修復されたものと思われる。総じて、浅い体奥に背筋を伸ばし、両膝を左右に大きく広げてゆったりと坐す造形に定朝様の面影を強く感じる。さらに右の腰部を共木で造り、前後に割矧ぐ一木割矧造の技法にも古様が伺われる。一方、少し頬を下膨れにつくり重厚感のある面長の面部と、地髪部を膨らませ肉髻を高く盛り上げ大粒の螺髪を刻むのは鎌倉時代後半から室町時代頃の特徴である。衣皺を見ると、腹部のそれは浅く絹地のような薄手の生地印象である。それに対して、左腕から左袖口・両膝の上半部にかけてのそれは衣皺が少し深くなり木綿地のように柔軟性もやや減少している。両膝の下半部・裳先のそれは柔軟性がさらに減少し、彫りも若干ごちなく細かいノミ跡を残しているので、彫技をみても時代を異にする3期の表現が伺える。つまり、腹部は12世紀頃、左腕から両膝上半部にかけては室町時代頃、両膝下半部は江戸時代と思われる。体内の観察を含めて総合的に推測したところを述べると、体部の前半部（両胸から腹部・右腋から右腰部）のみ平安時代後期（12世紀頃）、頭部・左体側部・左袖口・両膝上半部は室町時代頃、背板風の体部背面材・両手首・両膝下半部・裳先・持物・肉身部の漆箔仕上げは江戸時代と思われる。肉髻珠と白毫の水晶は近代か。頭部に円形（直径約5cm大）の欠損あり。

当寺の歴史と宝物については、『薬樹山延命寺略誌』³⁾に詳しい。それによると、当寺は弘法大師の旧跡で、もと寶幢寺と号した。その後、江戸時代に浄厳和尚が衰退していた当寺を中興して薬樹山延命寺と改称し、真言律寺院として復興させたとある。薬師如来については、同書に、

3) 『薬樹山延命寺略誌』上田進城編 延命寺 1930.3.15

五、本尊并寶物

(中略)

一、薬師如来	座像二尺七寸	一軀
一、十二神將	立像各一尺七寸五分	十二軀
一、日光月光菩薩	立像各二尺六寸	二軀

右三筆は當村常樂寺の本尊なりしが同寺廃寺の際奉請せるものなり。寺傳に曰く、此尊は近松門左衛門の念持佛にして、弘仁式の古佛なり。

とある。これによると、薬師如来、日光・月光菩薩、十二神将像は、廃寺となった近在の常樂寺より移管された客仏であり、寺では近松門左衛門の念持仏の謂れがあり、平安前期の古仏とある。近松門左衛門念持仏については不問にすると、その伝来がある程度判明するのと、昭和5年に於いて既に平安の古仏と認識されていたことは貴重である。何よりも、廃寺となり、歴史の舞台から消えた常樂寺ゆかりの藤原彫刻が延命寺の什物として保存されてきた意義は大きい⁴⁾。

以上より、常樂寺は大念仏宗の錦部郡古野村極樂寺末寺で、元禄5年(1693)11月時点では存在していた。当該仏像が延命寺客仏となったのは、それ以降のことと思われる。

4) 常樂寺については、島津知子氏より、下記の資料提供があった。

① 吉年祐一家文書 「錦部郡之内本多伊予守領分寺社吟味帳」(『河内長野市史』第七卷所収 1980. 3. 31)

大念仏宗同郡古野村極樂寺末寺

一 常樂寺 敷地境内 東西拾三間半 除地
南北拾六間

右寺 梁行四間壺尺五寸 看坊
桁行六間壺尺五寸 教雲
藁葺ひちき作
壺間壺尺五寸之しころ付有
庫裏 梁行三間
桁行四間
藁葺

(元禄五年十一月四日)

② 「大念仏寺記録写」(延宝5年-1677, 中谷家文書)(『図説河内長野市史』所収 2010. 3. 31)に、極樂寺末寺として記述がある。

③ 「神戸藩領河内国本末寺号其他明細帳」(明治3年10月, 吉年祐一家文書)(『河内長野市史』第8巻所収)には名前の記載がない。

④ 市指定 河州錦部郡鬼住村絵図(天和3年-1683)に、常樂寺と思われる寺院が延命寺の隣接地に描かれている。

薬師如来 法量明細 (単位 cm)

像高	87.0	肘張	51.0
頂き—顎	30.2	腹厚	25.0
髪際—顎	17.4	膝張	71.0
面幅	15.7	膝厚—右	12.5
耳張	21.0	膝厚—左	12.4
面奥	22.0	膝奥	45.0
胸厚 (左)	22.7		

薬師如来・光背 挙身光，寄木造，漆箔仕上げ，高 140.2 cm，江戸時代

薬師如来・台座 蓮華座，寄木造，漆箔仕上げ，高 59.0 cm，江戸時代

日光菩薩立像 寄木造，彩色仕上げ，玉眼，輪光背，蓮華座，像高 89.5 cm，総高 130.0 cm，光背高 94.5 cm，江戸時代

月光菩薩立像 寄木造，彩色仕上げ，玉眼，輪光背，蓮華座，像高 90.0 cm，総高 131.5 cm，光背高 96.0 cm，江戸時代

十二神将立像 12軀 (単位 cm) 寄木造，彩色仕上げ，玉眼，輪光背，岩座，江戸時代

	像高	総高	光背高
①子	54.0	79.0	62.0
②丑	54.0	80.0	64.5
③寅	55.0	85.0	67.0
④卯	53.0	73.0	60.5
⑤辰	58.0	87.0	69.0
⑥巳	57.0	75.0	60.0
⑦午	54.0	73.0	58.0
⑧羊	55.5	87.0	68.5
⑨猿	53.0	81.0	63.0
⑩酉	54.5	83.0	66.0
⑪戌	56.0	83.2	66.5
⑫亥	54.0	80.5	65.0

(延命寺の宝物調査と報告書の掲載をご許可頂いた上野霊宣氏に篤くお礼申し上げます。調査には、大阪府立狭山池博物館田中和弘氏と河内長野市教育委員会島津知子氏が同行し、有益なご教示と調査協力を得た。あわせてお礼申し上げます。)



薬師如来 正面全景



同左側面



同右側面



同左斜面



同背面



同像底



同両膝



月光菩薩



日光菩薩



子



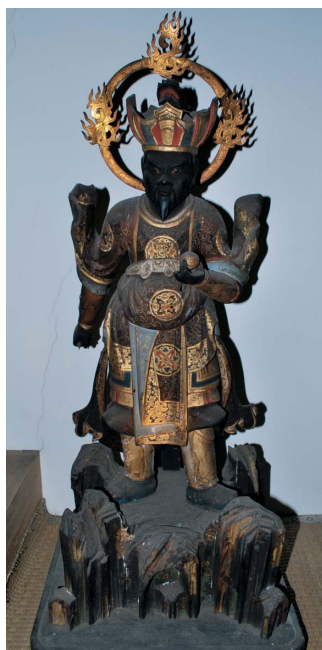
丑



寅



卯



辰



巳



午



羊



猿



酉



戌



亥